20028

大動脈弁位血栓弁が疑われた重症大動脈弁狭窄症の 1 例

症例は 80 歳男性。高血圧ネフローゼ症候群で近医通院中。労作時呼吸苦を認め、当院循環器内科紹介され、心不全加療目的に入院。精査の結果、重症大動脈弁狭窄症の診断となり、高齢であることから TAVI が計画された。術前評価の造影 CT で右冠尖に血栓を疑う造影不良域を認め、血栓による塞栓症が危惧されたため外科的大動脈弁置換を施行した。切除した大動脈弁尖はいずれも石灰化を伴っており、血栓弁が疑われた右冠尖は一部肥厚していたが、外観は血栓を疑う所見はなかった。生体弁を移植し、手術は終了。一時血液透析を必要としたが術後 18 日退院した。病理所見ではリンパ球を中心とした炎症細胞の浸潤を伴う線維性肥厚の所見で、血栓は否定された。画像上、血栓弁が否定できず TAVI を中止した症例を経験したので報告する。